

第3次雲南市総合計画 基本構想/人口ビジョンの方向性について

2023年9月1日

1. 基礎調査

1 - 1. みんなでつくろう！雲南の“ミライチズ”

日時：2023年5月28日 13時～15時半

場所：雲南市役所 5階 会議室

参加者：91人

講師：龍谷大学 副学長 深尾 昌峰氏

モデレーター：

雲南市地方創生アドバイザー 山元 圭太氏

コメンテーター：

龍谷大学 副学長 深尾 昌峰氏

スピーカー：

雲南市長 石飛 厚志

新市いきいき会 会長 小林 和彦氏

(公財)うなんコミュニティ財団 事務局長 石原 尚美氏

地域活性化起業人 梅澤 宏徳氏

プログラム：

13:00- オープニング

13:10- 基調講演

14:00- トークセッション

15:30- クロージング



【基調講演】

- これまでの社会は人口増を前提につくられたもの。これからは人口が減少し、これまで通りの構造や制度ではうまくいかないモデルなき時代。
- AIやコロナの影響により、幸せのかたち・価値観が大きく変化。地域の経営の仕方、市役所のあり方、人の生き方を考えなおしていくタイミング。
- これからの社会は目指したい未来を描くことが重要。総合計画もバックカスティングで未来を基軸に作る事が重要。
- 変人は最大の誉め言葉。「多様性」「多元性」の言い換えであり、変なことを考える人がいないと変わらない。
- 総合計画策定は、雲南モデルのミライチズを作るチャンス。

【トークセッション】

- 政策をつくるプロセスを市民と住民、議会とのパートナーシップをデザインする機会に。
- 地域自主組織で、ずっとやってきたことがコロナでできない状態が3年続いた。元に戻すのではなく、次の取組みを考える必要。
- これまでの考え方にこだわっていると見えなくなるものもあり、いかにアンラーンの発想をするかも重要。
- チャレンジも古くなってきた。チャレンジとは違う視点も重要。
- プランを作ることが目的化する「P病」にならないように。

1. 基礎調査

1 - 2. 市内視察

日時：2023年6月29日 9時～17時

参加者：策定委員14名、若手W10名、事務局3名、委託先2名

訪問場所：

①まちのワーキングスペース「オトナリ」

- ・NPO法人おっちラボ 代表 小俣健三郎氏
- ・一般社団法人エンター 代表 杉村卓哉氏
- ・(株)必ず楽しい 代表取締役 高橋朋恵氏
- ・(公財)うなんコミュニティ財団 木村和子氏

②みんなのお家（ラーニングセンター）

③KANUKA PARK

④おんせんキャンパス

⑤波多交流センター



【感想・意見】

- ・ 様々な分野の人が地域づくりに関わっている事がよくわかった。同年代の人たちに自分ごとだと思って欲しい。自分から拾いにくいなくても情報が入るといい。
- ・ 地元の人ほど地元を知らない。
- ・ 雲南市を良くしたいとか雲南でチャレンジしたいという方々がたくさんおられることを知ることができた
- ・ 市内で様々な事業をされている方々（自主組織含む）が、全員のびのびと生き活きと活動されているのが印象に残った。そうした人々の力が100%発揮できる基盤になりうる計画であるべき。
- ・ 雲南市はチャレンジに理解があって良いと沢山言われたが、中にいるとあまり感じられないのでおどろいた。
- ・ 総合計画を見てやる気になるようなことが盛り込めるとよい。
- ・ 一市民として自分達のライフプランや将来像を考えることが総合計画につながると感じた。
- ・ チャレンジを受け入れてもらえる基盤づくりも大切だが、今ある良さのブランド化も大切。
- ・ まずは自分の周りの人に総合計画を知らせることが重要。
- ・ 心豊かな子どもを地域一体となって育てていく環境づくりが必要。
- ・ 波多地区のように身の丈に合ったことを、とにかくにやってみようという姿勢はとても大切。

1. 基礎調査

1 - 3. まちづくりワークショップ

日時：2023年7月15日 13時半～16時半

場所：雲南市役所 5階 会議室

参加者：45人

講師：倉成英俊氏（Creative Project Base代表）

プログラム：

- ①自己紹介（10文字）
- ②雲南市ってどんなまち？（10文字）
- ③雲南市はこれからどんな市になる？（一単語で）
- ④ // （英単語で）
- ⑤ // （出雲弁で）
- ⑥ // （10文字以内で）

※スマートフォンで回答、Slidoを使ってリアルタイムに共有し、意見交換を行った。



【意見等】

・雲南市はこれからどんな市になる？（1単語）

地域自給 変人 互助 チャレンジ ブレーキ ワクワ
ク 多様性 思いやり 静穏 おんぼら 八百万 挑戦
気楽 自然回帰 小規模多機能 育む

・雲南市はこれからどんな市になる？（英単語）

Well-being hope slow chaos Galapagos
relaxation リスペクト オープン Challenge person
コンサマトリー（自己充足、非道具的） sleep

・雲南市はこれからどんな市になる？（出雲弁）

たばこすーだわね えすこに いけずご てご やらこ
い！ よおきてごさいしたなあ てごしてごいた ちーとわて
じねんに いえすこ がっしょ ばんじまして ほんそご
だんだん おっちら おんぼら まめなかね まげなこと
やらこい すいちよる がっしょで ぼつぼつ わけもん
ええす なんだいかなだい せつくない ごもしん

・雲南市はこれからどんな市になる？（10文字以内）

挑戦二割たばこ八割 なんか、えすこに がっしょでえすこ 羨ま
しがられる市 安心な食の街、雲南 日本の原風景が残る街 変わり
変わらない街 미래のふるさと おいでよ変人の森 みんなで
つくる村社会 ほか多数

1. 基礎調査

1 - 4 . 先進事例調査

日時：2023年8月9日 13時半～16時半

場所：あわくら会館（西粟倉村役場）、地域熱センター、（一社）西粟倉むらまると研究所

対応：上山隆浩氏（西粟倉村地方創生特任参事）

参加：策定委員12名、若手W8名、事務局3名、委託先2名

行程：

- ①西粟倉村役場
- ②ちぐさ研究室
- ③西粟倉百年の森林でんき（株）
- ④（一社）Nest
- ⑤（一社）西粟倉むらまると研究所



【感想・意見】

- 計画ごとにKPIが設定され、バラバラになることがあるが、ビジョン（総合計画）を中心に据えることでKPIを一つにすることができる。
- ビジョンを立てただけでは共感・共有は生まれない。達成するための「シンボルプロジェクト」を定め、実行することにより、できていること・できないことが可視化され、支援者が見つけやすくなる。
- 森林を地域資源と位置付け、林業に価値をつけ、地域内の経済循環を進め、村全体への波及効果を狙う取り組みを進めている。
- 個人で管理できない私有財産を地域の社会的共有財産（公共財）として村が管理することで、森林資源の価値最大化に地域全体で取り組むことを可能にしている。
- まちづくりに当たっては専門性をもった民間企業の力を積極的に活用し、連携して取り組むことが重要。
- 時代のトレンドを捉え（ローカルベンチャー、脱炭素など）、スピード感をもってチャレンジしていくことが重要。
- 地域内の経済循環を生み出すことを大切にしている。行政には地域全体で多くのお金が回る方法を考え、必要な事業に投資する姿勢が求められる。
- 地方創生、脱炭素など、時代の流れがあり、集中的に国のお金が投下される。次の流れを読むことが重要。

1. 基礎調査

1 - 5. 振り返りワークショップ

日時：2023年8月10日 9時半～11時半

場所：雲南市役所5階会議室

参加：策定委員12名、若手W8名、事務局3名、委託先2名

プログラム：

1. みんなでつくる雲南のミライチズ（7月15日）振り返り
2. 西粟倉村事例調査の振り返り
3. 地域ビジョン・シンボルプロジェクトの案だし



【地域ビジョン】

- えすこにつなぐ。みんなが主役。メリットのある暮らし。
- 物心両面で自分自身が楽しめる。担い手が減っても楽しめる。
- 丁寧に次世代につなぐ。えすこにつなぐ。
- 楽しいはつながる。楽しいところに人・もの・コトが集まる。
- 総働。
- みんなえすこにウェルビーイング。自分、人間以外を考えた持続性を追求する。
- 共に生きる。心と体が動く。のんびり、せかせかしない。

【シンボルプロジェクト】

- 子どもに受け渡せる状況をつくる。各分野で大人たちがカッコいい姿を子どもたちに見せ、その人の魂や哲学を受け継ぐ「人づくりプロジェクト」
- 自然の恵みを再確認・認識するプロジェクト。森林・田畑を公財に変え、自給力を上げる。地球があり、生物があり、人間があるというバランスを大切にする。
- お金の流れを全体でバランスするプロジェクト。新しいお金の流れ研究所。地域自給プロジェクト。食・エネルギー・人材。
- 自治の産業化プロジェクト。自主組織による地域自治の仕組みを可視化し、市外へ移出（販売）する。

1 - 6. これまでの総括



キックオフフォーラム（龍谷大学 深尾副学長）

これまで（人口増を前提とする社会）と、これから（人口減少社会）は違う
幸せのかたち、価値観の変化（働き方・暮らし方・教育のあり方の変化）
豊かな環境、資源がある雲南にはチャンス！

市民協働の深化（市民との対話プロセスのデザイン、関係人口の拡大）



総合計画策定委員会でのご意見

挑戦より、みんなで、楽しみながら、幸せに、えすこ（いい具合に）というマインド
市全体で共有できるシンプルでわかりやすいビジョンを
教育、経済循環、自治、自給、総働、生物多様性などがキーワード



市議会でのご意見

人口減少が進む中では、行政施策の効率化（合理的な見直し）も必要

地域の人権対策、周辺部対策は道路や除雪など身近な生活課題への対応が重要

2-1. 基本構想の構成

計画の構成

基本構想、基本計画、実施計画について、現行計画の位置づけを踏まえ、以下のように整理する。

区分	内容	期間	方針（案）	項目（案）
基本構想	雲南市の将来の目標及び目的達成のために必要な施策大綱を示し、まちづくりの基本指針を明らかにするもの。	10年	市民が手に取り、読みたくなるもの。 自分ごととして雲南市の将来を考えたり、行動するきっかけとなるもの。 これまでの歩みを大切にし、新しい未来の創造を促すもの。	<ul style="list-style-type: none"> ● 市のこれまでとこれから ● 基本理念・目指す姿 ● 人口ビジョン ● 土地利用ビジョン ● 基本目標（分野ごとの将来像）
基本計画	基本構想で定めた雲南市の将来像を達成するために必要な施策・事業の基本的な考え方を示すもの。	5年	<p>施策の目的・目指す状態を市民の実感値として言語化。</p> <p>上記の実現に向けた行政として取り組む挑戦と目標値を言語化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の目的 ● 市の挑戦 ● 施策目標 ● 基本事業
実施計画	基本計画で定めた施策を行財政の状況を踏まえてどのように実施していくかを定める年次計画。	1年	<p>政策評価、予算要求等に必要最低限の情報で構成。</p> <p>庁内での情報共有がスムーズに進むよう配慮。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の目的 ● 事業内容 ● 事業目標 ● 事業費 ● 担当部署

2. 基本構想の検討



見直し(案)

①まちづくりの将来像を全体で描く

- ・ これまでは5分野ごとに将来像があり、まちづくり全体の将来像(10年後の姿)が見えづらい。
- ・ 基本構想がめざす将来像を一本化して全体で描くことで、市民にわかりやすく伝えることができる。
- ・ 将来像は、図式化(イラスト化)するなど、わかりやすいデザインを用いる。

②分野ごとに基本目標を定める

- ・ めざす将来像の下に、これを実現するための分野ごとの基本目標を設定する。
- ・ さらに、基本目標を達成するための施策を、基本計画の中に設ける。

見直しの意図

- ・ 行政計画から市民計画へ
これまでの行政計画として性格を改め、市民とともにまちづくりを進めていくための計画とする。
- ・ ビジョン(めざす姿)の共有を重視
そのためにも、10年後のめざす姿をわかりやすく示すことを重視する。

2-2. 基本理念の検討

雲南市のこれから

みんなで、えすこに。

一緒に笑顔でやらいこい

なんか、えすこに

みんなでつくる村社会

がっしょでえすこ

お互いさま精神な町。

出逢いが連鎖する場所

挑戦や応援を大切に

挑戦二割たばこ八割

挑み学び続ける町

チャレンジとてごの町

今日の次を目指すまち

変わり変わらない街。

価値を作り伝える

てごをしますあなたのために

する場所

てばなしてつなげる

子どもが夢見る街

安心、安全、楽しく暮らせる

ゆったり、優しい街

安心な食の街、雲南

安心して寝られるまち

ハハハと笑える街

みんなきらきら雲南市

湿度と笑顔が溢れる町

子どもがお辞儀する町

皆で終活楽しむ街

原風景が残る

やまたのおろち♡

八百万のふるさと

おっちらと広がるまち

無限の雲が彩る街

原風景を感じるまち

日本の原風景が残る街

いつまでも田舎街



憧れられる

せかいのうなん

雲南市ってどこ？って

のびしろのまち

隣まちが憧れるまち

羨ましがられる市

個人や多様性が尊重される

変人育成と受容

オープンシティ

おいでよ 変人の森

だれもが大切にされ王様の多彩な原っぱ

新しいふるさと

あたらしいふるさと

みらいのふるさと

きぼうのふるさと

みんなのふるさと人口減ならペット推し

生き返った田舎

循環するまち

シンプルイズベスト

2-3. まちづくりの将来像（10年後のめざす姿）の検討

①ここで育ちたい、育てたい

幼稚園から高校までが連携し、地域の特性を活かした魅力ある教育環境を創出。

雲南市全体を校区とし、どこにいても必要な学びが得られる仕組みを整備し、教育移住へとつなげる。

④住民が主体となったまちづくり

地域のデータやノウハウを可視化し共有する仕組みを整備。

地域自主組織を主体とするまちづくりを推進。

③チャレンジ

子ども、大人、企業、地域のチャレンジを支援。

空家、森林などの地域資源を雲南市共有の財産として一元的に管理・運用する仕組みを構築。

企業版ふるさと納税の活用を含め、地域全体でお金の循環を最大化するための仕組みをつくる。

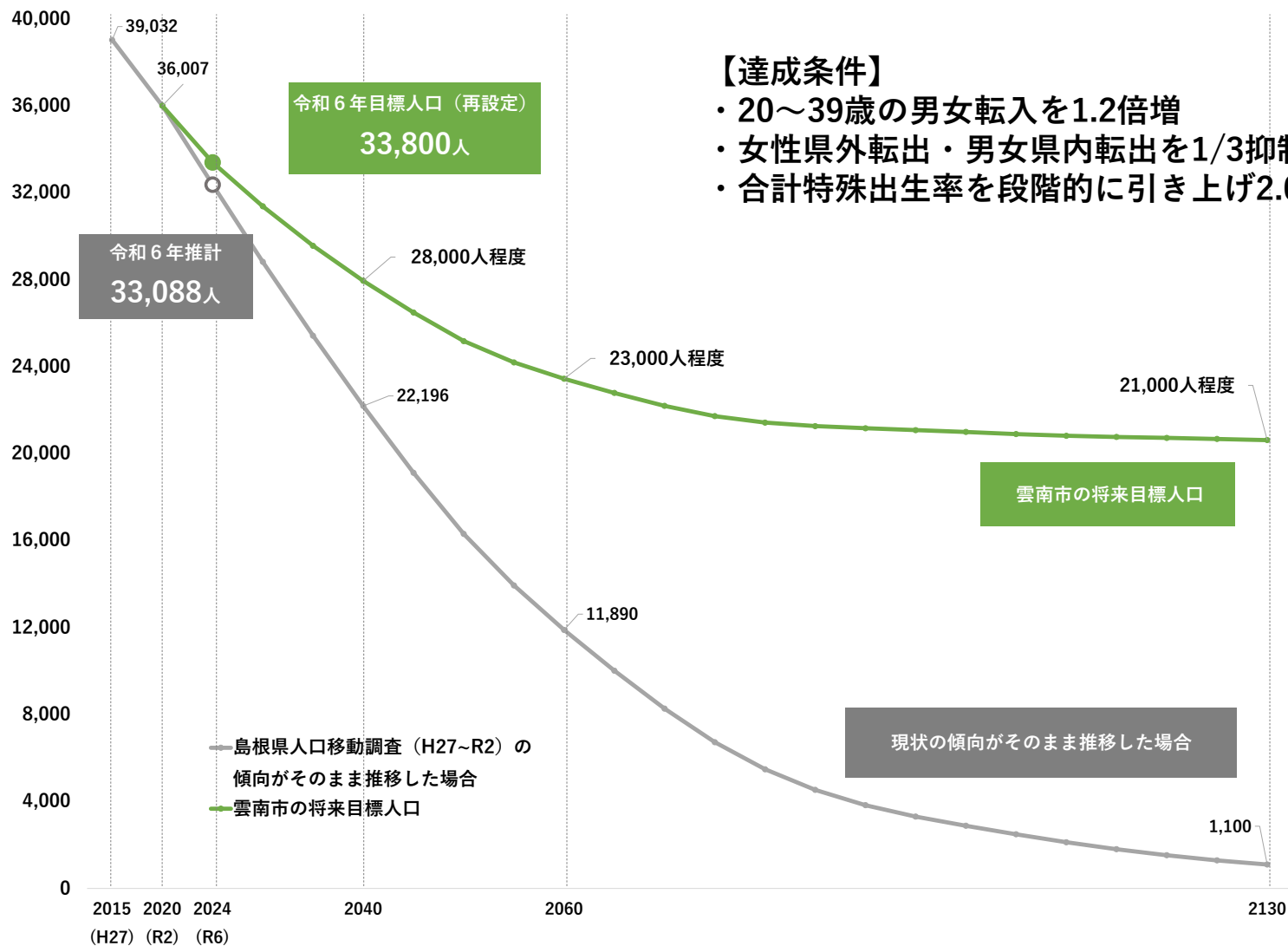
②経済循環創出

雲南市が有する農業生産基盤、森林資源を生かし、食とエネルギーの自給率100%へ。

⑤食とエネルギーの地産地消

3-1. 現状における人口目標と対策

現状における人口目標と対策



3. 人口ビジョン

3-1. 現状における人口目標と対策

人口目標の達成状況

対策（1） 20～39歳の男女転入を1.2倍増

	目標値	20～39歳転入（男女計）	男				女			
			県外		県内		県外		県内	
			20～29歳	30～39歳	20～29歳	30～39歳	20～29歳	30～39歳	20～29歳	30～39歳
① H26～R2 平均		470	58	29	62	53	81	59	76	52
② R3年（2021年） R2年10月～R3年9月		371	45	25	64	57	45	23	59	53
③ R4年（2022年） R3年10月～R4年9月	563	419	47	28	59	54	64	47	64	56
R3年 対① 転入増加率（目標1.00以上）		0.79	0.77	0.86	1.03	1.08	0.56	0.39	0.77	1.02
R4年 対目標値 転出抑制率（目標1.00以上）		0.74	0.81	0.96	0.95	1.02	0.79	0.80	0.84	1.08

対策（2） 20～39歳の女性県外転出・男女県内転出を1/3抑制

※①を基準としてR6年度転出者数1/3に向けて、段階的に転出者数を抑制する。

	目標値	20～39歳 女性県外転出	女性県外転出	
			20～29歳	30～39歳
① H26～R2 平均		158	108	50
② R3年（2021年） R2年10月～R3年9月		113	82	31
③ R4年（2022年） R3年10月～R4年9月	140	126	88	38
R3年 対① 転出抑制率（目標1.00以下）		0.72	0.76	0.62
R4年 対目標値 転出抑制率（目標1.00以下）		0.90	1.07	1.23

	目標値	20～39歳男女 県内転出	男女県内転出			
			男		女	
			20～29歳	30～39歳	20～29歳	30～39歳
① H26～R2 平均		341	93	67	114	67
② R3年（2021年） R2年10月～R3年9月		337	108	60	112	57
③ R4年（2022年） R3年10月～R4年9月	303	306	85	67	98	56
R3年 対① 転出抑制率（目標1.00以上）		0.99	1.17	0.90	0.98	0.85
R4年 対目標値 転出抑制率（目標1.00以上）		0.99	0.79	1.12	0.88	0.98

対策（3） 合計特殊出生率を段階的に引き上げて2.07を維持

合計特殊出生率	R3年（2021年）	R4年	R5年	R6年	R7年	R8年
目標値	1.64	1.82	1.84	1.86	1.96	2.07
実績値	1.43	-	-	-	-	-
差	-0.21	-	-	-	-	-

3-2. 既存戦略の検証から見える傾向 ①

● これまでの総括と主な課題

(1) 子育て世代の松江市、出雲市への転出抑制

- ・子育て施策の保護者の満足度は80%を超え、転入理由でも「子育て環境」や「教育環境」などへの評価が高いことから、こうした魅力を積極的に発信していく必要がある。
- ・「住宅」を理由とする転出は改善傾向にあるが、依然として主要な転出要因となっている。また、空き家の増加が深刻化しており、新たな住宅団地への市内転居もその要因の一つとなっている。
- ・若い世代の「結婚」を理由とする社会減が拡大している。転出理由として「しがらみがない」が一定数あることから、地域の人権意識の向上や、スポーツ・文化の振興など若者や女性がいきいきと心豊かに暮らしやすい環境づくりを進めていく必要がある。

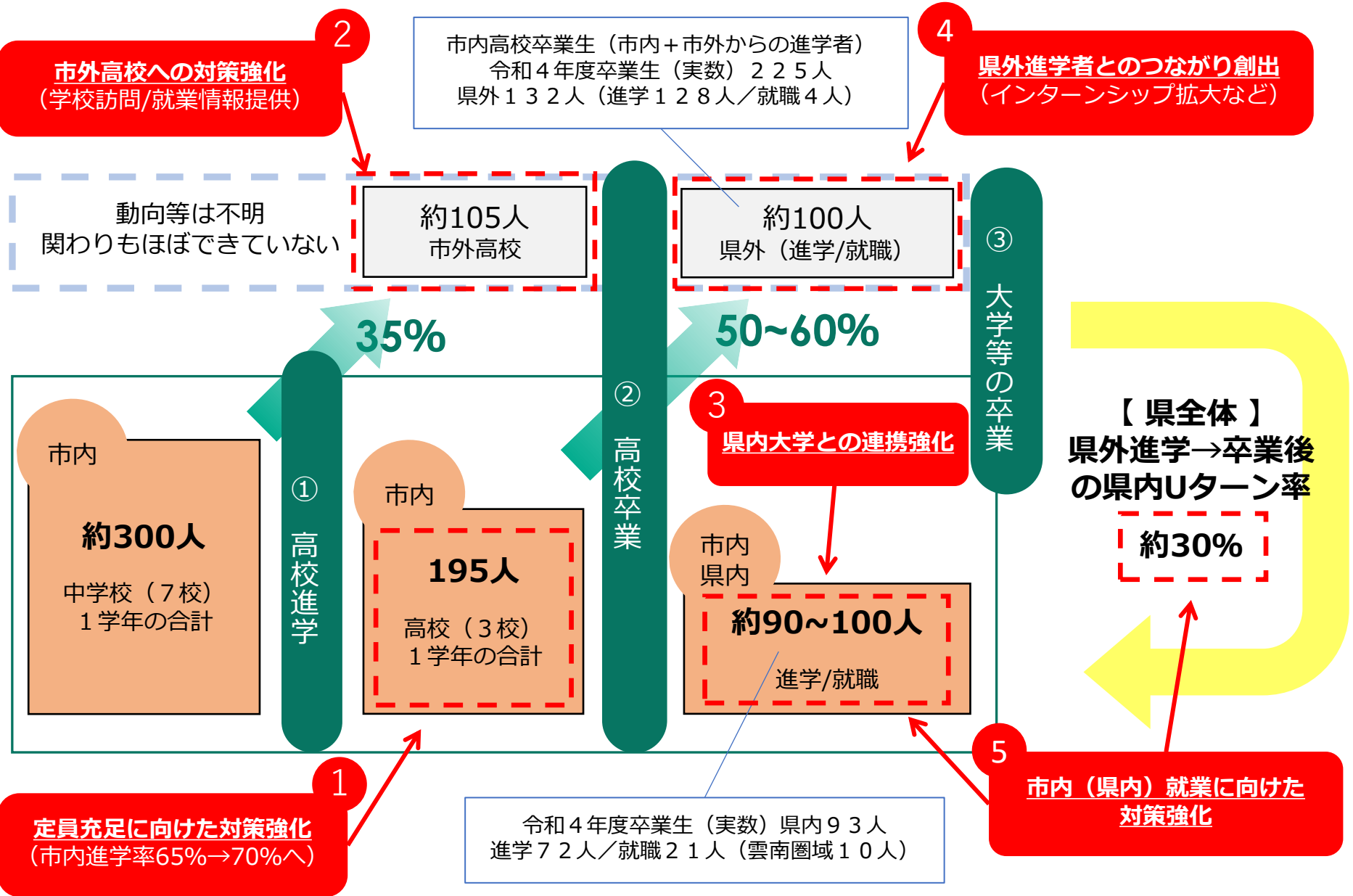
(2) 大学進学・就職を理由とする県外転出への対応

- ・高3生の約7割が将来もふるさとに貢献したいと回答する一方で、5割を超える卒業生が県外へ進学し、そのうち7割は県外で就職する傾向にあり、人材還流に向けた取り組みが急務。
- ・市内就業対策として、高校との連携強化が必要。また、デジタル人材の育成やこれによる新しい働き方への対応を積極的に進め、若者や女性が求める働き場の確保を進めていく必要がある。
- ・県外在住の出身学生や若者による本市まちづくりに関わる活動が生まれており、こうした学生・若手社会人のコミュニティづくりを進め、将来的なUターンにつなげていく必要がある。

(3) 結婚・出産・子育て支援の充実

- ・出生数が200人を割り込んでおり、将来的な人口の安定化には子どもの数を増やすことが極めて重要であり、結婚、出産、子育て支援のさらなる充実が課題となる。

「人材還流」に向けた取り組み（対策イメージ）



3-2. 既存戦略の検証から見える傾向 ②

● 住宅・雇用の数が社会増に直結しない状況があり、新たなロジックが求められている？

- ・ 人口を支えるために必要な住宅数・雇用数を設定し、その実現を人口対策における重点課題として推進。
- ・ 現状において住宅着工数は目標を達成しているのに対し、人口増が連動していないことの現状をどう評価するか？（住宅の新陳代謝があり、新築増＝住宅増にはならない？）
- ・ 同様に雇用数（事業所数・製造業従業員数等）は横ばいで推移するのに反し、社会増減は減少で推移する現状をどう評価するか？
- ・ 企業誘致などの取り組みはこれからも重要な施策であると思われるが、施策効果のコントロールがしにくく、人口目標との現実的な紐づけが可能か？

大項目	中項目	小項目	単位	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	合計	目標	備考
				H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年			
人口	総数		人	39,032	38,506	37,794	37,012	36,248	36,007	35,303	34,646			
		0-14歳	人	4,597	4,445	4,317	4,224	4,088	4,041	3,945	3,830			
		15-64歳	人	20,147	19,646	18,949	18,291	17,687	17,539	17,024	16,614			
		65歳以上	人	14,228	14,355	14,468	14,437	14,413	14,427	14,334	14,202			
社会増減	転入		人	963	908	711	742	809	746	664	727			
	転出		人	1,055	1,072	1,049	1,046	1,107	925	929	885			
		計		△ 92	△ 164	△ 338	△ 304	△ 298	△ 179	△ 265	△ 158			
	うち住宅	転入	人	37	45	37	33	54	51	45	44			
		転出	人	68	69	85	80	65	65	83	69			
		計		△ 31	△ 24	△ 48	△ 47	△ 11	△ 14	△ 38	△ 25			
	うち転職・転業	転入	人	51	49	42	56	64	46	50	38			
		転出	人	41	48	44	50	59	54	43	67			
計			10	1	△ 2	6	5	△ 8	7	△ 29				
住宅整備	持家	戸	55	44	74	66	72	55	62	67	495	242		
	賃貸	戸	4	4	3	21	12	9	26	54	133	395		
	分譲	戸	2	2	2	0	3	3	0	1	13			
雇用創出	事業所数	事業所		1,966	1,743	1,743	1,743	1,743	1,743	1,723	1,723			
	市内就労者数	人		13,576	13,342	13,342	13,342	13,342	13,342	13,467	13,467			
	製造業従事者数	人		未実施	3,492	3,343	3,318	3,400	3,409	3,348	未公表			
	市外からの立地認定件数	件		2	0	0	0	0	0	2	0	4		
	地場企業の立地認定件数	件		1	3	0	3	3	3	2	3	18		
	新規増加雇用者数（立地認定計画時）	人		—	—	—	11	13	24	41	69	89		
	事務系職場の誘致件数	件		—	—	—	—	0	0	1	0	1		

3-2. 既存戦略の検証から見える傾向 ③

● 住宅の量より、雲南の特性を活かす住宅の「質」の充実に可能性があるのでは？

移住世帯Yさん（ご夫婦＋子1人）

【移住の経緯】

- 地域、教育、人づくりへの関心から島根大学の社会教育主事育成講座を受講・島根県への移住を検討。コミュケアを紹介してもらい、やりたい仕事ができるわけではないが、チャレンジしている人とつながれると考え福岡県から移住

【住宅・住環境に求めた条件や評価】

- the公営住宅は嫌だったが、家賃、職場からの距離、災害リスクをもとに木次東定住促進団地へ居住。ハザードマップを気にする。新しい住宅ほど川沿いにある印象。
- 地域自主組織の存在は魅力的でつながりを持ちたいが、公営住宅に住むとつながりがない。
- 田舎ぐらしの理想を実践できる戸建ての公営住宅、古民家を改修した賃貸住宅があると良い。「定住者」と囲い込むのではなく、パッと入り、パッと出られる公営住宅があると良い。

【教育環境に求めた条件や評価】

- 有機農業など、食へのこだわりが良いと思って来たが、保育園で市販のお菓子や小学校のメニューが出るのが残念。
- 地域とのつながりを大切にしている幼稚園・保育園が多く魅力的。支援センターも充実している。
- 半面、子どもの人数が少ないことが気になる。

【その他】

- 定住促進住宅の居住までの手続きが煩雑。認め人は市内居住者限定、受付までの期間が短い、紙資料が多い等、不親切に感じた。

移住世帯Fさん（ご夫婦）

【移住の経緯】

- ご主人が木次町出身。コロナの影響で5、6年ぶりに帰省した際にしっかり見たことの無かった魅力に気づく。都会暮らしを求めて上京したが、子育てを無理してやっている、しんどそうに感じるように。

【住宅・住環境に求めた条件や評価】

- おおらかな自然環境、隣近所との程良い距離感を魅力に感じ、空き家バンクを通じて吉田町田井地区の空き家を購入し居住。
- 公営住宅も内覧したが、カビだらけの状態。都会的なマンション暮らしに飽き飽きし雲南市に来ているが、古民家の利用に制限がある（仏壇、DIYできない）。
- いきなりがつつり田舎暮らしは怖いですが、団地暮らしだと都会の街中の暮らしと変わらない。

【教育環境に求めた条件や評価】

- 吉田町内に保育所・小学校があるが、児童数が13人と少ない。少人数による功罪がある。吉田から木次に通える選択肢があると良い。
- 温泉キャンパスがあり、多様な子どもを受け入れる環境があるのは魅力。

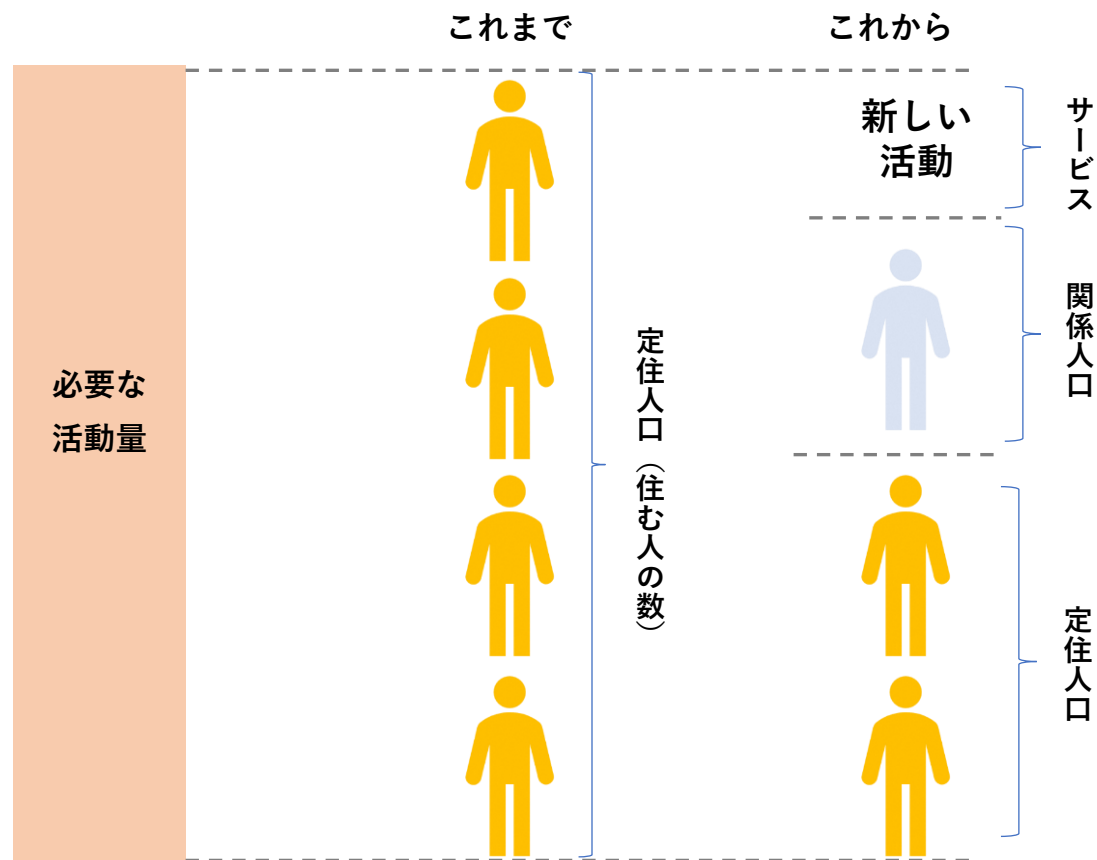
【その他】

- 移住者にとって、自治会は未知で得体のしれない存在。どういふもので、どういう付き合いをすれば良い等の事前情報があると良い。
- 地域自主組織の存在は、住むうえで安心材料になる。住む前に知ることができる環境があると良い。チャレンジにやさしいまちが唐突であった。

3-2. 既存戦略の検証から見える傾向 ④

● 定住人口のみに解を求めることに限界があるのでは？

人口減少社会を前提とした場合、定住人口の数に解を求める対策には限界がある。地域の維持・継承という人口減少対策の目的に立ち返り、新しい視点に立った対策を考えることが、社会の変革期の現在に求められる対策では。



3-3. 方針パターン

(1) 人口減少に歯止めをかけるために実現可能な目標値をボトムアップ型で定める

- ・ 転入人口の増大、転出人口の低減、出生率の向上について、実現可能な目標値を設定し、それに従って既存施策の見直しを行う。
 - ・ 将来人口の目標値を、上で設定した人口推計パラメータによってボトムアップ的に定める。
- 既存の総合計画策定の考え方に即したスタンダードな方針といえる。ただし、社会の変革期を俯瞰した大局的な方法ではなく、人口減少時代に本質的に求められる計画とはならない。

(2) 人口減少を前提とする「人口減少社会に適応するための総合計画」

- ・ 将来の人口を社人研推計にあわせて想定する。
 - ・ 人口減少に歯止めをかける、のではなく、人口減少を前提として、関係人口の確保を含めどのような施策を打てばソフトランディングができるかを目的として施策を見直す。
 - ・ バックカスティングによるリスクヘッジとして総合計画を位置付ける。
- 人口減少に転じた現代日本社会において、実用的観点から真に求められる行政計画と考えられる。

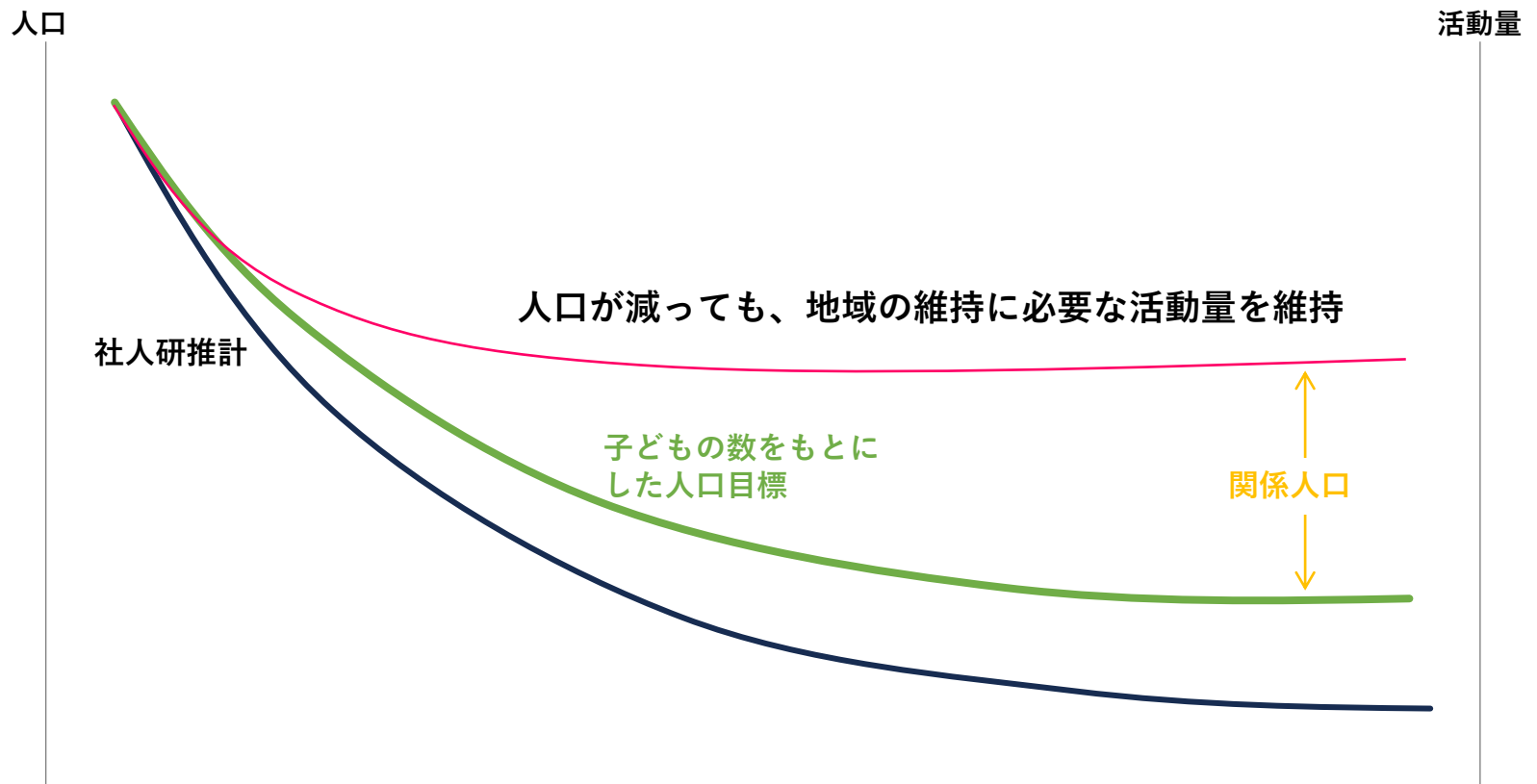
(3) 他自治体との差別化を図り、“尖った戦略”で人口回復を目指す

- ・ 人材育成事業などの、雲南市が強みとして持っている施策に特化し施策を見直す。
 - ・ 「質」を重視した地方創生の取組。UIターン者へのヒアリング等を重ね、徹底的な質の向上を狙う。
- 敢えて人口増・人口回復を目指すなら「尖った」戦略による特殊解が必要。
- U.C.C、幸雲南塾、雲南スペシャルチャレンジといった人材育成事業の強みを尖らせ、「教育」をフックとして、他自治体と差別化・選ばれる都市として人口回復を目指す など。

3-4. 人口ビジョンのイメージ

● 人口減少を前提としながらも「地域の維持が可能な人口目標」を設定する。

→ 子どもの数+関係人口を指標とする人口ビジョンの策定



参考. 関係人口による活動事例

● 里山照らし隊による草刈応援



草を刈る、
山に遊ぶ。
宇山の一日

雲南市吉田町 うやま

2022
6/25
土

【午前の部】8:00~
草刈り応援隊

*草刈り応援隊参加の方には昼食を用意します。
*初心者OK・草刈機貸出OK。軽装不可。

【午後の部】13:00~

ツリークライミング

*見学自由。その他森林散歩などでお過ごしくたさい。
*お子様同伴も歓迎。

会場：雲南市吉田町民谷 340 番地
松江尾道道「雲南吉田IC」から8分

【参加申込み・お問い合わせは】

草刈り応援隊：090-4145-7312（松江）・里山照らし隊：terashital.jp

ツリークライミング：woodship.forest@gmail.com

参加費
無料



ツリークライミング（イメージ）



● 波多秋祭り

「波多だからやりたいこと」を1年間で取り組みたい

波多秋祭り

Project in 2022 (仮)

関係人口の人たちも繋がる機会

波多の秋祭り残したい行事のカタチを残す

ますは、はやし子から壁を1つずつ解消する

出身者の仲間を集め、『波多』で活動する

波多で残したいものを話す機会・交流会を企画